

## 子どもがかかる感染症

子どもは生後6か月までは、母親からお腹の中で受け取った抗体により感染症にかかりにくいとされています。

しかし、6か月を過ぎると抗体が減少し、感染症にかかりやすくなります。

ここではワクチンで予防できる代表的な病気について説明します。

### ●麻しん（はしか）

麻しんウイルスに感染することにより起こる病気です。感染力は極めて強く、麻しんの免疫を持っていない人が、感染した人に接するとほぼ100%の人が感染します。

空気感染が主な感染経路ですが、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」及び、ウイルスが付いた手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

【症状】約10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。合併症として肺炎、中耳炎、稀に脳炎、失明等があり、肺炎や脳炎は重症化すると死亡することがあります。

【予防法】有効な予防法はワクチン接種です。ワクチンは麻しんと風しんの混合ワクチン（MRワクチン）として定期接種になっています。1歳と小学校入学前1年間の2回接種することが推奨されています。

### ●風しん

風しんウイルスに感染することにより起こる病気です。

【症状】2～3週間の潜伏期間の後、発熱し、その翌日くらいに小さく赤い発疹が顔から始まり、それが一気に全身に広がります。

また、耳の後ろや後頭部のリンパ節が腫れて痛むこともあります。

【予防法】有効な予防法はワクチン接種です。MRワクチンとして定期接種になっています。1歳と小学校入学前1年間の2回接種することが推奨されています。

【その他】妊婦が風しんにかかり、お腹の赤ちゃんが感染すると死産や流産となることや、先天性風しん症候群と呼ばれる病気をもって生まれることがあり、妊娠の可能性のある女性や妊婦は特に注意が必要です。

### ●水痘（みずぼうそう）

水痘・带状疱疹ウイルスに感染することにより起こる病気です。

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染する「飛沫感染」あるいは、

水疱や粘膜の排出物に触れることによる「接触感染」があります。

発疹が出る1日から2日前から全ての水疱が痂皮化するまで感染力があります。

【症状】10日~21日間の潜伏期間の後、強いかゆみを伴う発疹が現れることが多いのが特徴です。

頭皮や顔に現れた発疹は、胴体、手足と全身に広がり、次々と新しい発疹が出現します。

水痘の発疹は、紅斑（赤いできもの）から丘疹（やや尖った膨らみのある皮疹）、水疱（みずぶくれ）、痂皮（かさぶた）と変化していくのが特徴です。38℃前後の発熱や倦怠感が2~3日続くことがあります。症状は比較的軽度なことがほとんどです。

【予防法】有効な予防法はワクチン接種で定期接種になっています。生後12か月から36か月の間に2回接種することが推奨されています。

### ●ロタウイルス

ロタウイルスに感染することで生じる急性胃腸炎です。

主な感染経路は、感染者の便に含まれるウイルスが手指を介して口に入ることで感染する糞口感染（経口感染）です。

【症状】2~4日の潜伏期間の後、激しい下痢、嘔吐、腹痛、発熱などの症状が現れます。

初めて感染した際は、症状が強く現れるため、特に乳幼児では脱水がひどくなるなど、入院が必要になることもあります。

【予防法】有効な予防法はワクチン接種で定期接種になっています。口から飲むワクチンで、ワクチンの種類によって接種回数と接種間隔が異なります。

### ●流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）

ムンプスウイルスに感染することにより起こる病気です。

保育園などで集団生活を始めたばかりの子どもに多く見られ、3~6歳の小児に多い感染症ですが、他の年齢でも感染することがあります。一度感染することで生涯の免疫が獲得されますが、中には成人になってから初めて流行性耳下腺炎になる場合もあります。

【症状】2~3週間程度の潜伏期間の後、耳の下にある耳下腺（唾液をつくる組織）に炎症が生じることから、同部位の腫れを特徴的な症状とします。両側が腫れることが多いですが、片側のみしか腫れない場合もあります。

【予防法】有効な予防法はワクチン接種です。1歳と小学校入学前の2回接種が推奨されています。

### ●インフルエンザ

インフルエンザウイルスによる呼吸器感染症です。通常の急性上気道炎（かぜ）に比べ、全身症状が強く出やすいのが特徴です。

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染する「飛沫感染」が主な感染

経路ですが、ウイルスが付いた手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。

【症状】1～3日の潜伏期間の、38℃以上の発熱、頭痛、咳、咽頭痛、鼻水、筋肉痛、関節痛が現れます。嘔吐や下痢など消化器症状がみられる場合もあり、子どもや免疫の低下している方などは重症化して肺炎や脳炎になることがあります。

【予防法】こまめな手洗いや室内の換気を行い、咳やくしゃみの際にはマスクやハンカチなどで鼻や口をおおうことも有効です。

また、ワクチンは接種すれば、インフルエンザに絶対にかからないというものではありませんが、発病の予防や、重症化予防には一定の効果があるとされています。